

みんなの力で、核兵器をなくそう！



～NPT 再検討会議 代表派遣報告会～ 開催報告

開催日時 2010年9月15日(木) 10:30～12:30

開催場所 東京都生協連 3F

主催 東京都生協連平和活動担当者連絡会

参加 90名(コープとうきょう、パルシステム東京、東都生協、東京南部生協、東京保健生協、東京ほくと医療生協、大学生協、東京都原爆被害者団体協議会、東京都地域消費者団体連絡会、生協流通新聞、地域生活研究所、日本生協連、東京都生協連)

ニューヨーク国連本部で開かれていたNPT(核拡散防止条約)再検討会議のため、生協では、4月30日(金)から5月7日(金)まで『NPT再検討会議生協代表団』として105名、被団協52名がニューヨークへ行きました。東京の生協からも16名が参加し、被爆者の皆さんとともに行動しました。代表派遣団に参加した皆さんから、ニューヨークでの行動や感想を報告して頂くとともに、NPT再検討会議最終合意文書の内容について学び、核兵器廃絶の実現に向けてこれから私たちにできることは何かを考えました。



冒頭、東京都生協連竹内専務理事から、東京の生協がすすめる核兵器廃絶の取り組みをさらに強めていきたいとの挨拶がありました。



NPT再検討会議代表派遣団報告

はじめに、コープとうきょう理事小浦道子さんから「NPT再検討会議生協代表団派遣の目的、生協代表団の役割などについて」お話を聞き、生協代表団の目的や役割などについて共有し、参加者の報告を聞きました。

司会のコープとうきょう 池田さん



コープとうきょう 小浦さん

現地での企画の主役は「被爆者」!

1. 日本被団協と協同して代表団を結成し、被爆者をサポートします。
2. 被爆の実相を広げる取り組みを進めます。
3. 核兵器廃絶への道筋をつけるために、各方面への要請を行う。
4. 帰国後、現地の様子や感じたことなどを地域で広げる

◆東京都原爆被爆者団体協議会(東友会)仲伏幸子さんから「ニューヨークでの証言活動を通して感じたこと」の報告をいただきました。



東友会 仲伏さん

学校をはじめ、小・中・高・大学、宗教団体、老人ホーム、日系人会など様々な場所で証言をされたお話がされました。小学校(コスコブ エレメンタリースクールで証言した際、「原爆をなくすために私たちは何をすべきか」という質問があった。また、聖ヨハネ大聖堂では、神父さんが「被爆者が70～80歳という高齢になっている今、我々はその話を聞く義務がある」と言われたことが印象に残っている。行く前には想像もしていなかったが、生協や現地の若い人たちに頼もしさを覚えた。自分には語り伝える責務があると感じているとのお話がありました。

◆東京都原爆被爆者団体協議会(東友会)山田玲子さんから「国連原爆展を通して」感じた事について報告をいただきました。



東友会 山田さん

「2005年に続いて2度目の原爆展を行なうことができよかった、自分自身、これが最後という気持ちで参加した」とのお話から始まりました。

パネル展は国連本部来場者ロビーで、広島市・長崎市が共催で行なわれました。49枚のパネルを展示し説明をおこなった。様々な国の、多くの人々に見てもらうことができた。目で訴えることでの力、見た人の想像力に期待します。原爆展には800名を超える人々からの感想が寄せられていますとのお話がありました。

◆東都生協理事松島正枝さんから「被爆者の皆さんと行動をともにして感じたこと」の報告をいただきました。被爆体験を語られる皆さんは、世界の若者と真実を伝えることの真剣勝負をしているように感じた。被爆者の皆さんは肉体的にも精神的にも辛い状況にある。被爆者の皆さんの願いは、誰にも自分たちと同じ思いをさせたくない。“核兵器の廃絶”という思い。「我々は、被爆者の皆さんの思い、核兵器の廃絶を世界へ訴え続ける義務がある」と会場に向けて語りかけました。



東都生協
松島さん

◆パルシステム東京職員の松本みなみさんから「学校訪問などを通して感じたこと」の報告をいただきました。被爆者の皆さんとともに3つの学校を訪問。被爆者の皆さんの証言を聞く子どもたちの姿勢、証言が終了後に駆け寄り握手を求める子どもたち。歴史的背景や教育が違って、それを乗り越えることができたと感じた。「伝わった!」と
思い、核兵器の廃絶に希望が持てたとの報告がありました。



パルシステム東京
松本さん



大学生協
竹之内さん

◆全国大学生協連学生委員 竹之内 浩紀さんからは、全国大学生協連から代表派遣する意義、役割と現地の訪問先での学生との交流、行動の様子、帰ってきてからの活動について報告いただきました。帰国後、NPT再検討会議代表派遣報告会を実施Peace Now!を3地域で約350名に報告したこと、11月12日消費者大会平和分科会で報告する予定という報告がありました。

「大学生協では未来に向けてPeace Action! ~一人ひとりがつなげる平和への想い~を平和活動のテーマとして全国で活動しています。これからも大学生が社会に目を向け、卒業後自分たちが創っていく社会や世界のことを考えられるようにして行きます」との報告がありました。

学習会 「2010・NPT再検討会議最終合意文書について」

講師：NPO法人ピースデポ代表 湯浅一郎 氏

地球社会は「軍事力が平和を担保する」がいまだに主流である。貧困や環境問題など切実で共通の課題が山積み。生存基盤の継続性のために資源を有効に使い、活かしていく方向に行くべき。軍事、戦争にエネルギーを浪費する余裕はない。市民の側が「軍事力にたよらなくても平和は作れる」という構想を打ち出すべき。その突破口に、核兵器廃絶、軍事規制、軍事費削減の声を上げるべき時は今、というお話から始まりました。



講師の湯浅一郎氏

NPTとは何なのか、1995年からのNPTをめぐる攻防、「核兵器のない世界」への潮流についてお話の後、2010・NPT再検討会議最終合意文書をもとに、成果と問題点について話がありました。

前進した点として、NPT合意文書に、核兵器禁止条約という文書が言及されたのは初めてのこと。失望した点として主委員会Iの議長草案が、核兵器保有国により「骨抜き」にされてしまったこと。核兵器廃絶に向けての現実の壁、世界の状況を分かりやすく話された後、最終文書を活かしつつ、包括的なアプローチをしていくことなど、核兵器廃絶のために、市民・自治体が出来ることが何なのか話がありました。

最後に「核兵器のない世界」への潮流ができて、構造化された矛盾という壁がある。「壁を押し続ける」努力こそが最も必要な姿勢であると参加者に訴えました。